

令和7年度 学校経営方針

京都市立花背小中学校

【学校教育目標】

「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を身に付け、次代を生き抜く子どもの育成
－ 郷土を愛する子どもを地域とともに育てる －

【目指す子ども像】

- 「目標に向け、自ら学び、よく考え、進んで実行する子」
- 「自然を愛し、郷土を愛し、人を愛する子」
- 「心豊かに、集団や社会の中でたくましく生きていく子」
- 「誰に対しても、思いやりをもって関わることができる子」
- 「多様な他者と協働し、主体的に挑戦する子」

【「目指す子ども像」を実現するための具体的な意識・行動】

- ・心を込めた「挨拶」がしっかりできる。 <信頼関係の築き>
- ・正しく丁寧な言葉遣いができる。 <相手を尊重し合い高め合う集団>
- ・授業は集中して真剣に取り組むことができる。 <学習規律の徹底>
- ・相手の意見を聴き、自分の意見が発表できる。 <言語活動の質の向上>
- ・家庭学習がしっかりできる。 <一人一人の学力向上>
- ・自分や仲間のよさを認め合うことができる。 <集団の質の向上>

【育成を目指す資質・能力】…学校教育目標の「次代を生き抜く子ども」が身に付けていてほしい資質・能力

⇒『自律性・主体性』と『多様性を尊重する態度』

【目指す学校像】

- ・本校に関わるすべての人（子ども、保護者、地域、教職員）が笑顔のウェルビーイングな学校
- ・へき地小規模校ならびに施設一体型義務教育学校としての特色や強みをいかした、子どもが自分らしさを存分に発揮し、生き生きと学び合い育ち合う「子どもが主語」の学校
- ・子どもの可能性を最大限に伸ばし、希望する進路が実現できる学校
- ・地域の宝であり未来の担い手である子どもをまん中にした、地域や家庭とつながり合い、信頼される学校

【目指す教職員像】

- ・公教育に携わることへの誇りと責任感を持ち、生き生きと日々の教育活動に取り組む教職員
- ・人間性や創造性、専門性を高めるために自ら学び続け、子どもとともに育つ教職員
- ・「校種や教科の枠」「経験年数」「歴任校」等の個々の違いを組織としての豊かさに変え、協働し新しいことに挑戦する教職員
- ・地域や家庭と連携・協働しながら、「目指す子ども像」の具現化に向けて全力で取り組む教職員

【具体的な取組】

- ・義務教育9年間を見通した小中一貫カリキュラムのもと、へき地小規模校の特色をいかした教育課程（花背学習、金管バンド、ことば学習、そろばん学習、スキー体験等）を編成する。
- ・校務分掌や研究組織等、小中の教職員が一体となり有機的に機能する組織体制を構築する。
- ・理論研修や研究実践を通して、へき地教育ならびに小中一貫教育についての理解の深化と実践力の向上を図る。
- ・地域や家庭と連携・協働し、地域の未来を見据えた「地域ぐるみの学校づくり」を推進する。
- ・隣接する保育施設と連携・協働した取組を通して、「架け橋期」の教育の充実を図る。
- ・ICTの活用をはじめとした校務の効率化の推進、日々の業務の見直しを恒常的に行う。

◆◇◆◇ 「確かな学力」の育成に向けて ◇◆◇◆

【重点目標】

「主体的・対話的で深い学び」を重視した日々の授業を核に、家庭学習との連動を通して、「自ら学ぶ力」を育成する。

【具体的な取組】

- ・「対話」を重視した授業を展開し、『自律性・主体性』と『多様性を尊重する態度』を育成する。
- ・小規模校の特性をいかして、ICT機器を活用して、個別最適で協働的な学びができる情報活用能力を育てる。
- ・9年間を見通した系統性、計画性のある家庭学習指導を行い、自学自習の習慣化を図る。
- ・ことば学習と読書活動を推進し、言語能力を培うとともに多様な見方、考え方と出あわせる。
- ・学校全体で「全国学力・学習状況調査」や「京都市小中一貫学習支援プログラム」の結果分析を行い、「指導と評価の一体化」の充実を図る。
- ・義務教育学校としての特性をいかし、内容の系統性や前期課程と後期課程の円滑な接続を意識した学習内容の充実を図る。

◆◇◆◇「豊かな心」の育成に向けて ◇◆◆◆

【重点目標】

自己有用感を高め、他者との絆を深めながら、「豊かな人間性と社会性」を育む。

【具体的な取組】

- ・系統的かつ計画的な「人権に関する指導」を行い、生活の中で多様な価値観と人権を尊重した判断・行動ができるように、各テーマにもとづき子どもの発達段階に応じた指導を進める。
- ・道徳教育を推進し、お互いの価値観を尊重し合う態度を養い、心理的安全性を確保する。
- ・必要性を理解させた上で、あいさつの励行や正しく丁寧な言葉遣い、規範意識を育む取組を行い、社会の一員として望ましい人間関係を築く。
- ・対面による行事や活動の振り返りなどを通して、自他のもつよさに気付く。本音で語り合い、互いに認め合う場を設け、自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高める。

◆◇◆◇「健やかな体」の育成に向けて ◇◆◆◆

【重点目標】

健康・安全について理解するとともに生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

【具体的な取組】

- ・生涯にわたり運動やスポーツを豊かに実践することができるよう、体育学習や運動部活動はもとより、休み時間や放課後を活用した取組や外遊びなど、教育課程全体を通して、すべての子どもが楽しみながら運動に触れる機会を積極的に設ける。
- ・子どもの体力や運動習慣等における特徴と課題を明確にし、体力及び運動能力の維持向上に向けた特色ある取組を推進する。
- ・性に関する基礎・基本的事項を正しく理解させ、人間関係や現在及び将来の生活において直面する性に関する諸課題に対して、適切な意思決定や行動選択ができるような指導を行う。
- ・計画的かつ多様な状況設定にもとづく自転車安全教室や防災・避難訓練、薬物乱用防止教室を実施し、様々な危険から自分を守るための知識と、学校や地域において危険を予測し、主体的に危険を回避する力および適切に行動できる力を身に付ける。
- ・子ども自らによる日々の健康観察への取組や各期での計画的な保健指導を行い、望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる取組を充実させ、保健だより等で保護者へ積極的な働きかけを行う。
- ・給食時間を和やかな雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちを育てる時間とする。
- ・望ましい食習慣と健康のために、何をどのように食べれば良いかを選ぶ力や、食に関わる人々と食物への感謝の心を持てるように栄養教諭による食指導や各教科の授業・委員会活動などの取組を行う。